

2021年度 東京外国語大学基金 活動報告

2022年7月
東京外国語大学

ご挨拶

2021年度の東京外国語大学基金の活動報告をお届けいたします。
2021年度も多くのご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

2021

年は夏に東京オリンピック・パラリンピックが開かれた年でしたが、コロナ感染症の拡大のために、大学は、学生に対し、かなりの長期にわたり課外活動を制限せざるをえませんでした。その経験は、学生にとって仲間と楽しむスポーツがいかに重要かを、改めて教えてくれました。新しい「人工芝基金（特定基金）」はこうした背景のなかで始まりました。大学は、いただいたご寄附を、スポーツの振興に限らず、学生の教育、学生生活の充実、また研究に役立ててまいります。本当にありがとうございました。



2022年7月

東京外国語大学長 林 佳世子

2022

年度に入り、ようやくコロナ禍にも終わりが見えてきました。本学にとって何より大事な「留学」は、派遣・受け入れともコロナ以前の水準にもどりつつあります。本活動報告を通じ、大学の「今」をご覧いただければ幸いです。



2022年7月

東京外国語大学理事
(基金・経営戦略担当)

犬飼 啓吾

2021年度も多くの方に東京外国語大学基金にご寄附を頂きました。心より御礼申し上げます。

寄附を頂きますと直ぐにお礼状と領収書をお送りしますが、夫々の寄附がどういう使途に使われたか、寄附を頂いてから纏まった支援事業に備えてしばらく蓄えておくものはもちろん、寄附を頂いて直ぐに特定目的に使用する寄附も、個別に報告することは難しい為その代わりに毎年作成する活動報告書にその役割を託して皆様にお届けします。

大学基金には「循環」と「繋がり」が大切と言われます。学生時代に基金に応援してもらったから卒業したら今度は自分が大学を応援する側になろうという循環。自分の子供が過去の寄附を生かした基金事業のお世話になったので自分も将来の活動を応援しようという循環。大学を支援して下さった企業・団体に興味を持ち自分もそこで活躍してみようという繋がり。

この活動報告書が新しい循環・繋がりを生み出すきっかけとなることを願っています。

引続き東京外国語大学基金へのご支援をよろしくお願い致します。

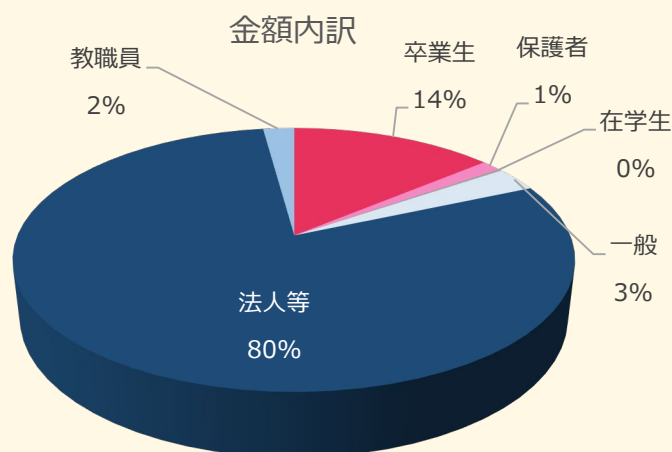
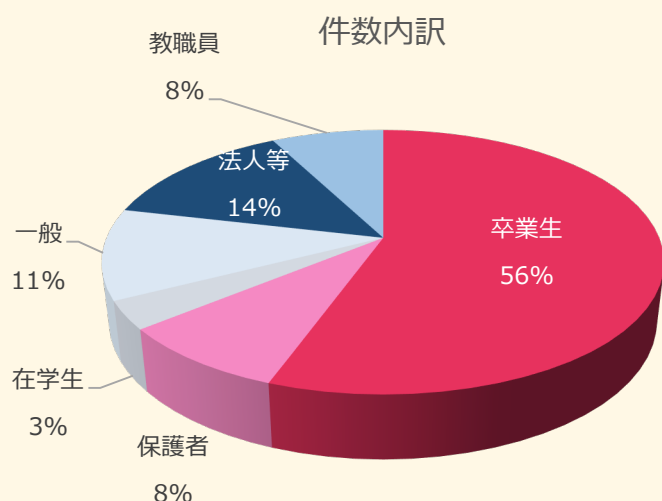
収支報告

(金額:円)

2021年度 期首残高	収入額	運用利息	支出額	2022年度 繰越
555,439,305	52,854,676	451,731	71,507,813	537,237,899

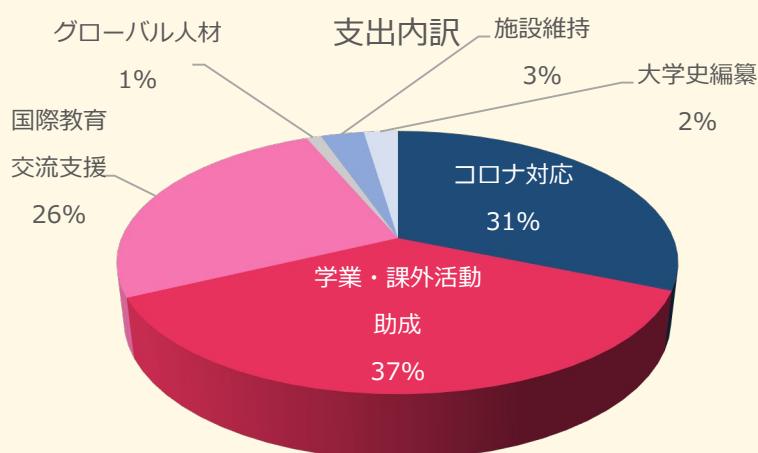
※新型コロナウイルス感染症に係る緊急無利子貸与奨学金の貸与額は支出額に含んでおりません。

<収入>



区分	件数	金額 (円)
卒業生	65	7,354,022
保護者	10	709,000
在學生	4	125,000
一般	13	1,581,000
法人等	16	41,955,654
教職員	9	1,130,000
合計	117	52,854,676

< 支出 >



区分	主な用途	金額 (円)
コロナ禍対応	給付奨学金、100円朝食、100円弁当、食堂利用券、フードパントリー提供食品	22,377,000
学生の学業・課外活動の助成	課外活動支援、国際教育支援、進路指導支援、コロナ感染症対策、大学会館備品更新	26,169,393
国際教育交流支援	「21世紀の地球社会と対話し行動する東京外国語大学」(“TUFs -InterACTing with the Global Society”)の基本精神にのっとり、言語や文化的な背景の違いをこえ本キャンパスに学ぶ優れた学生(日本人学生・留学生)に対する奨学金の支給、海外派遣などの幅広い支援事業。	18,432,726
グローバル人材育成支援	外国語運用能力の育成を中心とした教育支援体制をよりいっそう強化するための事業。	721,379
異文化交流施設維持管理	外語際の語劇、イベント等で使用するアゴラグローバルプロメテウスホールの維持・保全	2,133,725
大学史編纂事業	大学史編纂・刊行	1,673,590

活動報告 (困窮学生に対する支援)

2021年度に実施した困窮学生に対する支援を紹介します。

給付奨学金事業

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、経済的に困難な状況となった学生を支援するため、本基金を財源とした返済を要しない奨学金の給付を行いました。

7月と11月の2度にわたり、学部・大学院の正規生（留学生を含む）に対し、一人あたり3万円を406名（12,180千円）に給付いたしました。

フードパントリー

昨年度に引き続き、計4回（8/23, 10/28, 12/23, 2/22）のフードパントリーを実施いたしました。

4回合計で約700名の学生に対して、お米、インスタント麺、缶詰等の食料品に加え、今年度は学生アンケートの結果に基づき、生活用品の配付も行いました。



学生から

一人暮らしの友達が非常に助かったと言っていました。
制度の継続を望んでいます。

100円朝食、100円弁当

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、仕送りやアルバイト収入が減り経済的に困窮している学生を支援するため、10月から1月の間、生協で100円朝食、100円弁当（夕食支援）の提供を実施しました。



当初は12月までの提供を予定していましたが、多くの学生が日々利用していた状況に鑑み、1月までの提供延長を決定いたしました。1日あたり100円弁当120食、100円朝食80食を提供し、経済的のみならず食生活の面からも学生をサポートしました。



学生から

話せなくても、誰かと一緒に食事ができるのがありがたかったです。

生協食堂の食券配布

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、家庭やアルバイト等の収入が減少した学生を対象に、生協食堂の食券配布を行いました。

一人あたり5,500円の食券を6月に200名、11月に200名に配布し、100円朝食、100円弁当（夕食支援）と合わせて、食生活の面から学生をサポートしました。



学生から

学食の食券配布は大変助かりました。
一食しっかり食べるだけでもかなり違いました。

特集

TUFS多文化共生学生自主企画

いただいたご寄附は、困窮学生に対する支援だけでなく、学生が充実した学生生活を過ごすための活動支援にも活用させていただいております。

今年度の活動報告書では、特集として、2019年度から2021年度の3年にわたり基金より助成を行った『TUFS 多文化共生学生自主企画』について紹介いたします。

TUFS多文化共生学生自主企画について

異なる言語、習慣、文化を持つ人々が対等な関係を築き、平和に暮らすことができる多文化共生社会の実現は、地球全体でめざすべき目標となっています。



(審査会の様子)

そのような社会の実現を目指すための学生による自主的かつ創造的な多文化共生活動（地域・国際貢献活動、交流活動、研究活動、ボランティア活動、社会改善活動など）を公募し、活動資金を大学基金から助成しました。助成に際しては、相互理解に必要な協力し合う姿勢を学んでもらうため、国内外の機関や団体と連携して活動することを条件としています。

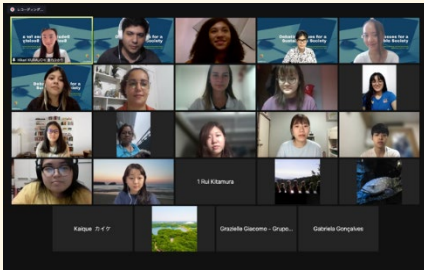
2021年度は、審査の上、4件（国際連携企画2件、地域連携企画2件）を採択し、活動の支援をしました。

それぞれの活動報告は、次ページ以降をご覧ください。

企画名：日伯学生サステナビリティフォーラム (Planeta 2.0)

日伯学生サステナビリティフォーラムを開催することで、日伯の持続可能な取り組みについての学びの場を提供できたと共に、海を越えた日伯の学生の交流の促進に貢献できたことに意義を感じました。

また、我々自身も両国の持続可能な取り組みに携わるプラクティショナーから実務的な学びを得て、またイベントの運営に関わる様々なスキル（企画力、渉外力、コミュニケーション力、予算管理方法、司会力など）を磨く貴重な機会となりました。



(オンラインフォーラムの様子)

本フォーラムの開催のために、厚くご支援賜った教育研究振興基金の皆様にご礼申し上げます。また、お忙しい中、本フォーラムで講演をいただいた講演者の皆様、イベントの運営をアシストしていただいた東京外国語大学の関係者の皆様、また全ての参加者の皆様にも感謝申し上げます。

企画名：ラオス料理で広げる多文化共生 (国社会)

この度は、教育研究振興基金によりご支援いただきありがとうございました。

普段ラオス語を専攻している私たちは、コロナ禍で客足が遠のいてしまった飲食店を救うとともに、ラオスについての認知を広げるべく、ラオス料理スタンプラリーを企画しました。ルールは簡単。都内のラオス料理店を回ってスタンプを集め、すべて達成すると景品がもらえるというもので、最終的には21名の方がスタンプラリーを達成してくれました。そのうちラオス料理を初めて食べた方が約4割を占め、この企画によってラオス料理の魅力を広めることができたことを嬉しく思います。

また同時にオンラインイベントも開催し、ラオス料理を生配信で作ったり、ラオス語クイズを通してラオスという国を親しみやすい形で紹介しました。コロナ禍においてもオンラインという形でラオスの認知を広げ、多文化共生へのきっかけを提供できたのかなと感じております。活動を終えた今、皆様のおかげで、大学生活で学んだことを学外で生かすという貴重な経験を得られたことを非常に嬉しく思います。今後もこの経験を糧に、学びを還元できるよう精進します。ありがとうございました。



(生配信でラオス料理を作った時の様子)

企画名：短編映画「Über unseren Morgen (わたしたちの明日のために)」の作製 (Breakout Raum3)

本企画は、私たちの「ドイツと日本の違い」への単なる興味から始まりました。その中で、近年話題になっている環境保護政策と、「環境保護大国ドイツ」を見たときに、今回の「豆腐」に注目する両国の食文化の違いというアイデアが浮かんできました。私たち自身、環境問題に興味を持ちつつ、そして豆腐をはじめとした大豆加工食品が環境保護に寄与しており、ドイツでそれが認知されていることを知っていながらも、その理由や実態については全く理解できていませんでした。しかしながら、本映画の撮影の過程で、日本とドイツ両国の豆腐生産者の方々の声を聴き、自分たちでも学習を進める中で、環境問題の深刻さと、食と環境の結びつき、そして豆腐が持つ可能性への理解を深めることができ、私たち自身食への向き合い方が大きく変わりました。

正直なところ、食について真面目に考える機会は今までになかった、というよりも生活の「当たり前」の一部になっていたのですが、その背景にある生産者の声や環境負荷を考えることで、自分たちが普段手にしている食べ物と地球とのつながりを考えられるようになりました。「衣食住」という単語になるほど食は私たちの生活に結びついているわけでありまして、一人の人間が行動を変えるだけで大きな効果を生むことができる、今はそう感じています。「この映画を通して少しでも多くの方が食に対する考え方を変わってくれたら」と思いながら作成し始めた映画ですが、作成者である私たちの考えまでもが大きく変わる、一種の転機となるような経験でした。映画という媒体の性質上、半永久的にこの作成物を公開することができますので、今後はさらにこの映画を広めることに尽力したく存じます。



(完成した映画のポスター)



(京都市街の撮影風景)

このたびは、本企画を支援していただきまして、誠にありがとうございました。教育研究振興基金によって本企画を実施することができました。機材を借り、実際に第一線で活躍される方々にインタビューを行うというこの経験は、皆様のご支援がなければ、学生の私たちでは経験することができないものでした。今回、このような意味のある映画を作成できたこともひとえに、教育研究振興基金にご寄附された方々のおかげでございます。心より感謝いたします。皆様のご支援のおかげで実現したこの経験を、世の中に還元できるように精進いたします。この度は本当にありがとうございました。

企画名：学食にヴィーガン料理を導入する企画 (Green Kitchen)



(地元農協からの野菜仕入れ)

まず初めに、この活動のために携わってくださったすべての皆様にメンバー同感謝申し上げます。ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

私どもの活動の目標は「学生食堂にベジタリアン料理を！」というものでした。それは、ベジタリアンやヴィーガンの留学生が来日してからそのような食事になかなかありつけないという悩みを聞き、彼らのために食の多様性を広げたい、という一つの思いから始めた活動です。日本では、意外にもこのような食文化は一部の人にしか知られておらず、日常的に目にするものではないのが現状です。もちろん、日本には独自の生活や文化、社会があり、必ずしも日本でヴィーガンを広めたい、というものではございません。そうではなく、「選択肢の一つとして」ヴィーガンやベジタリアンの取り組みを多くの方に知ってもらいたい、という思いがありました。

東京外国語大学生協同組合さんやJAマインズさんをはじめ、様々な方のご協力を賜り、無事活動を実現し、学生食堂にヴィーガン・ベジタリアン料理を提供いただくことができました。具体的には、10メニュー、計864食の料理を提供することができました。食堂で、我々が提供に尽力したメニューが食べられている様子や、留学生の方が喜んでる様子を拝見し、とても嬉しく感じました。また同じく多文化共生自主企画の国社会の皆さんと協力することでラオス料理をベジタリアン使用で提供することができ、異文化理解における食の可能性を感じることができました。活動は先月で終了いたしました。今後も異文化や外国語を学び続けること、そしてその学びをより良い社会のために活かすことに尽力してまいります。

私共の活動にご支援を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。この活動を通して、食を通じた多文化共生・異文化理解を多くの方に知っていただけただけでなく、私たち自身もヴィーガンやベジタリアンに関する様々なことを学ばせていただきました。

これらの学びはひとえに皆様方のご理解、ご支援によるものであり、身に余る光栄に存じます。今後も、世界の諸地域の言語・文化・社会を学ぶ者として、よりよい社会の実現に貢献してまいります。

改めまして、この度は誠にありがとうございました。

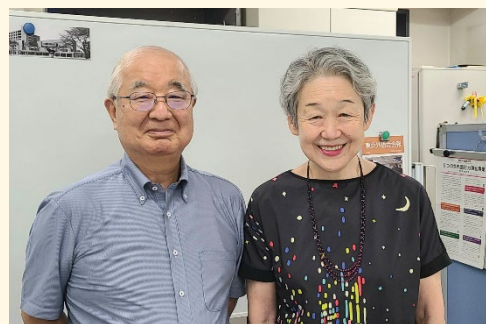


(Instagramに載せたメニュー)

寄附者からの声

東京外語会の掲げる目標の一つは、母校・大学への協力です。しかし2020年以来、未曾有のコロナ禍により、大学の本体をなす学生の境遇は悪化の一途を辿りました。後輩たちに何ができるか、同窓会にとって他人事でない問題でした。二年間、困窮学生への支援には大学共催のフードパントリーのほか、外語会独自の取り組みとして100円朝食・100円弁当を提供し珍しい同窓会活動と世間の話題をさらいましたが、我々の寄附がまず学生たちの体を支え、学習環境を整えるうえで役立つようにと考えます。

大学への要望としては、ぜひ学生たちの生の声を聞かせて頂きたい。食事に限らず、何が今一番必要かに応える支援が必要です。当会が自負する現在進行形の貢献には、現役OBOGによる寄附講義があります。かつての外交官プログラムに類する魅力的な寄附のあり方を模索し、大学がめざすグローバル人材・国際職業人の育成・キャリアを輩出してきた外語会ならではの提案をと思います。



(和田事務局長と寺田理事長)

東京外語会事務局 様

私は1970年代後半に東京外国語大学で学びましたが、卒業後は語学とはほとんど無縁の社会人になったため大学ともあまり縁がありませんでした。ただ社会人となってある程度余裕ができてから何か社会貢献ができないかと考えるようになりました。それは大学だけではありませんが自分がこれまで社会に支えられてきた、今度は自分が支える番と思うようになったからです。あまり活動的ではない私なのでボランティア活動は無理としても、寄附ならできると考えていくつかの非営利団体に寄附をする活動を始めました。そして東京外国語大学の会報誌で大学でも寄附を募っていることを知り、参加しようと決めたのです。

今回活動報告書を拝見して寄附金の使い道を知ることが出来、コロナ関連の支出がかなり多いことに驚きました。いつかは落ち着くと思いますが・・・そして奨学金(出来れば給付型)が増えるといいなと思いました。

私は2年ほど前に社会人を卒業しましたが、微力ながら支援を続けさせていた dank つもりです。陰ながら応援しています。

高野 恭子 様

1979年 スペイン語科卒業

2021年度のTOPICS

2021年度からはじまった新たな取り組みを、
ご紹介します。

研究等支援事業基金の設置

学生やポスドク等の『若手研究者』への研究支援を目的とした『研究等支援事業基金』を設置しています。令和4年1月から、『研究等支援事業基金』にご寄附の方は、従来の『所得控除』に加え、『税額控除』のどちらか有利な税法上の優遇措置を選択することが可能となりました。皆様からのご支援が、将来を担う優れた人材育成につながります。温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

ベトナム関連教育支援基金の設置

ベトナム語の教育研究及び社会貢献の発展に資することを目的とした『ベトナム関連教育支援基金』を設置し、令和4年3月1日から寄附の受け入れを開始しています。いただいたご寄附は、ベトナム語を学ぶ本学学生、ベトナムからの本学留学生への教育助成だけでなく、本学多言語多文化共生センターのベトナム関連事業への支援にも活用させていただく予定です。

人工芝プロジェクトについて

TUFS



※人工芝の敷設及び各部分のライン等はイメージであり、確定したものではありません。

東京外国語大学 グラウンド人工芝化プロジェクト

本学が府中キャンパス移転後20年余り経過し、体育授業、体育系課外活動等に使用している屋外運動場について、衛生面や安全面において活動への支障が懸念されておりました。学生たちの体育授業、課外活動における良好な運動環境を提供し、土煙の抑制や怪我の予防、雨天後の使用効率の向上ため、人工芝を敷設することを目的に『人工芝基金』を設置いたしました。2023年度中の完成を目指して募金活動を進めて参りますので、皆様のご理解と温かいご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

東京外国語大学長 林 佳世子

TUFS 人工芝



情報お申込みはこちらから



東京外国語大学は2023年に建学150周年を迎えます

2022年度支援事業計画

区分	主な使途	金額(円)
学生の学業・ 課外活動の助成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生相談室の充実（カウンセラーの配置、夜間相談窓口対応等）に係る経費。 ・ 英語や他言語の自立学習を支援するため、スピーキング・セッションの実施。 ・ 英語多聴・多読プログラム、オンライン学習プログラム等の多様な学習の機会を提供、多読資料となる図書などの購入。 ・ 毎年11月下旬に開催される外語祭（学園祭）への助成。 ・ 大学公認の各部、サークル活動などのクラブ活動支援。 ・ キャリア教育支援や学生の進路指導に必要な資料購入、各種セミナー等開催に係る経費。 	25,830,000
給付奨学金事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害で被災したために、学資負担者（保護者）の経済状態が急変した学生に対する給付奨学金事業。 	4,089,000
国際教育交流支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「21世紀の地球社会と対話し行動する東京外国語大学」（“ TUFS - InterACTing with the Global Society”）の基本精神にのっとり、言語や文化的な背景の違いをこえ本キャンパスに学ぶ優れた学生（日本人学生・留学生）に対する奨学金の支給、海外派遣などの幅広い支援事業。 	18,878,562
国際教育事業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学が目指す多文化共生に広く貢献できる人材及び優れた国際人の育成並びにグローバル・キャンパスの実現に寄与する教育推進事業の支援。 	5,621,945
大学史編纂事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学史編纂・刊行のため経費。 	1,813,000
異文化交流施設 維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外語際の語劇、イベント等で使用するアトラグローバルプロメテウスホールの維持のため、保全業務を実施するための経費。 	2,720,900

ご寄附いただいた方々

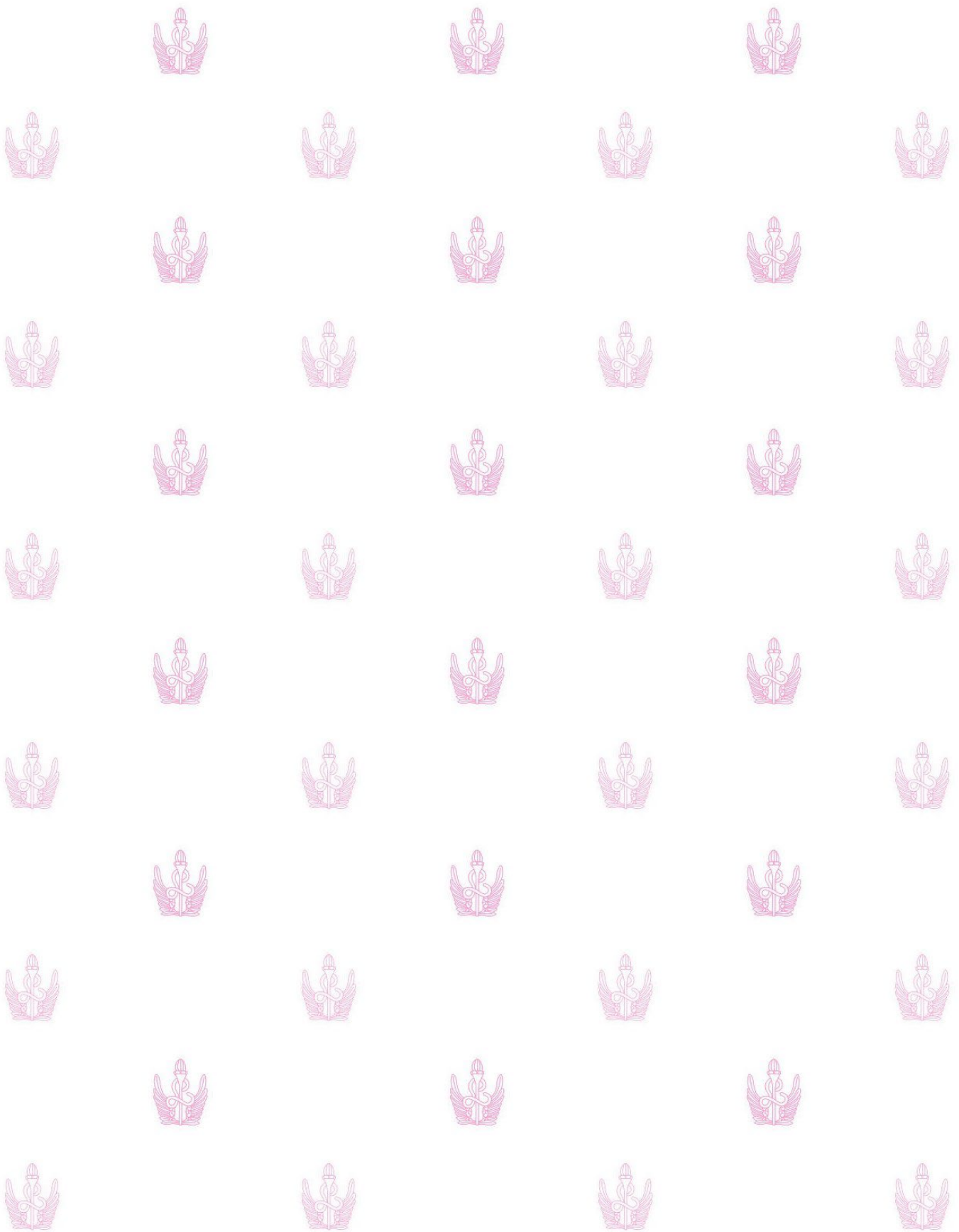
個人

青木 裕子 様	赤塚 紀彦 様	浅山 祐子 様	池田 友美 様
石郷岡 政広 様	今井 昭夫 様	井本 剛司 様	梅野 鉄朗 様
大澤 重之 様	岡田 恵美子 様	小川 文正 様	荻野 潤一 様
加藤 麻理子 様	唐澤 健華 様	鎌原 正直 様	喜多 延鷹 様
久保寺 靖彦 様	熊谷 圭美 様	熊澤 喜八郎 様	小出 智子 様
三枝 茂夫 様	斎藤 勉 様	坂口 信義 様	坂本 武信 様
作村 直人 様	島田 志津夫 様	須賀田 三志朗 様	鈴木 征市 様
田井 聡子 様	高野 恭子 様	高村 明宏 様	舘 次郎 様
千葉 太玄 様	寺田 博之 様	中江 恵子 様	中川 十郎 様
中崎 麻奈 様	中島 広数 様	奈良坂 純 様	新美 陽子 様
箱山 富美子 様	畑岡 茂 様	浜田 健滋 様	藤井 壮史 様
藤田 智子 様	細内 正久 様	増田 淳 様	宮川 敦 様
宮島 進 様	望月 圭子 様	森 直子 様	森田 理絵 様
門馬 寛巳 様	山口 登之 様	山下 将明 様	

会社、法人、団体

旭化成株式会社 様	一般社団法人 東京外語会 様	一般社団法人 インフォカート未来基金 様
大阪有機化学 工業株式会社 様	株式会社TAMLO 様	株式会社 デジタルジュエリー 様
産商アドマーケティング 株式会社 様	東京外国語大学 学生後援会 様	三菱地所株式会社 様

■お名前の公表をご了解いただいた方のみ掲載しております。



東京外国語大学総務企画課基金室
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL : 042-330-5126 FAX : 042-330-5140
E-mail : tufs-fund@tufs.ac.jp
URL : <http://tufs-fund.jp/>